

1. 作物の施肥基準

(1) 作物別施肥基準の利用にあたっての留意点

県内で多く栽培されている主要作物について施肥基準を設定した。

施肥量は目標収量をあげるための標準施肥量を県内一円で示したもので、地域の土壌や気象などの環境条件に応じて加減する必要がある。

適応範囲は作期、作型などの範囲を示したもので、ここで掲載してある以外の作期、作型あるいは特殊な栽培をする場合は施肥量を加減する。

(2) たい肥の有効成分量を施肥設計に組み入れる。

たい肥に含まれる有効成分量は、原料の種類によって異なるため、自家製の家畜ふんたい肥の場合は表 - 1、2 の数値を参考にして減肥する。

市販の場合は、たい肥の袋等に表示してある値に以下の成分含有率と有効化率をかけて、有効成分量を算出し、基肥基準量から差し引く。

表 - 1 家畜ふんたい肥の成分含有率(目安)と有効化率 (%)

	窒 素		リン酸		カ リ		水分
	含有率	有効化率	含有率	有効化率	含有率	有効化率	
牛ふんたい肥	0.7	30	0.9	60	0.8	90	70
豚ふんたい肥	1.8	40	3.0	70	2.1	90	45
鶏ふんたい肥	2.6	50	6.0	70	5.0	90	15

注)水分の多少により、養分含有率は変わるので換算する。

換算方法：表 1 の含有率 × {100 / 100 - (表 1 の水分 - 使用するたい肥の水分)}

表 - 2 家畜ふんたい肥の施用による基肥基準量の減肥量(kg/10a 当たり)

	窒 素	リン酸	カ リ
牛ふんたい肥 1t の場合	2.1	5.4	7.2
" 2t "	4.1	10.8	14.4
" 3t "	6.3	16.2	21.6
豚ふんたい肥 500kg の場合	3.6	10.5	9.5
" 1t "	7.2	21.0	19.0
鶏ふんたい肥 300kg の場合	3.9	12.6	9.2
" 600kg "	7.8	25.2	18.4

例 市販牛ふんたい肥（成分表示 窒素 0.7 %、りん酸 0.9 %、カリ 0.8 %）を 1t 施用した場合の基肥施肥量

高冷地キャベツ施肥基準	窒素 20 kg	りん酸 21 kg	カリ 20 kg
牛ふんたい肥 1 t 施用	窒素 2.1 kg	りん酸 5.4 kg	カリ 7.2 kg
基肥施肥量	窒素 17.9 kg	りん酸 15.6 kg	カリ 12.8 kg

* 注意点

パークたい肥のように C / N 比が 20 以上の場合は、窒素飢餓が心配されるので、たい肥からの窒素成分量は 0 として、施肥基準量どおりに施肥する。

たい肥の有効成分量は、基肥から差し引くこととし、追肥は施肥基準どおりに速効性の化成肥料等で施用する。

たい肥のいずれかの成分量が基肥を上回る場合は、その成分を無施用とする。

上記以外で、含有率や有効化率が不明な場合は牛たい肥を目安とする。

たい肥の施用量はリン酸またはカリの施用量が 30kg/10a を越えないようにする。

(3) 地域区分

地域区分は作物によって異なるが、普通作物・飼料作物については表 - 3 のように標高を基礎に、コンニャクは行政区分を主体にした。

表 - 3 作物別地域区分

普通作物		飼料作物	
地域名	標高	地域名	標高
東部平坦地域	100 m 以下	} 平坦地域	100 m 以下
平坦地域	200 m 以下		
中間地域	200 ~ 400 m	} 中山間地域	100 ~ 500 m
山間地域	400 ~ 700 m		
高冷地域	700 m 以上	高冷地域	500 m 以上

(4) 記号等について

表の中の作型模式図の記号は次のとおりとする。

○	は種	トンネル
×	定植	ハウス
□	収穫期間	堀上げ
	萌芽期	伏せ込み
~~~~~	休眠期	--- 育苗期間
	電照開始	鉢上、鉢替
	電照打切	

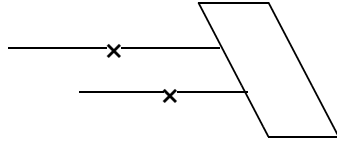
丸数字( ) など)は追肥回数と時期を示す。ただし特用作物、果樹の場合は施肥回数とする。

### 作型模式図の読み方

播種期間あるいは定植期間に幅がある場合



作期幅のある場合



### 単位等について

収量、施肥量、資材等の取扱量について、特にことわりのないものは10a当たりの数値とする。